

# 授業科目 小児言語障害学 II

【担当教員名】  山岸 達弥		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○			○	
【概要・一般目標：G10】 言語発達障害の中で、学習障害、多動性障害、特異的言語発達障害などの特徴を学ぶ。 代表的な検査の実践を通して検査概要を理解する。また、検査結果の解釈の仕方を習得し、指導プログラムへの流れを理解する。					
【学習目標】 1 言語発達障害に関する基礎知識を習得し、概説できる。 2 学習障害、多動性障害、特異的言語発達障害などの臨床像を把握し、説明できる。 3 各障害の評価・訓練を学び、その要点を説明できる。 4 言語聴覚士と発達障害児の生活面でのかかわりを学び、実態について説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	言語発達障害オリエンテーション 言語発達障害の概要と関連領域			1	講義
2	学習障害			2	講義
3	学習障害			2	講義 VTR
4	多動性障害他			2	講義
5	多動性障害他			2	講義 VTR
6	検査の種類と実際（1）WISC-III			3-4	講義
7	検査の種類と実際（2）WISC-III			3-4	講義 演習
8	検査の種類と実際（3）WISC-III			3-4	演習
9	検査の種類と実際（4）WISC-III			3-4	演習
10	検査の種類と実際（5）WISC-III			3-4	演習
11	検査の種類と実際（6）WISC-III			3-4	講義
12	特異的言語発達障害など			3	講義 VTR
13	臨床現場の実際			3	講義
14	検査結果の解釈と支援プログラム			2	講義
15	まとめ			2	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		言語聴覚士のための言語発達障害	石田宏代、大石敬子	医歯薬出版	2008・3,400円＋税
参考書		WISC-III アセスメント事例集 ー理論と実際 ー		日本文化社	2005・3,400円＋税
その他の資料		プリント			
【評価方法】 出席、レポート、発表内容および定期試験等で評価する。			【履修上の留意点】		